

長崎市提案型協働事業提案企画書

団 体 名	長崎史談会
提案事業の名称	まちなか 魅力新発見 事業
提案事業の目的	<p>長崎は、江戸時代に関することはよく知られ研究もされ、現在でもさるく観光をはじめ、まちづくりなどに大いに活用されている。しかし、明治以降のことについては未開拓の分野が山積している。たとえば大正11年に芥川龍之介が長崎を訪れ、屏風に河童の絵を描いているなど、興味深い事実がいろいろとあるにも関わらず、十分に認識されていないというのが現状である。</p> <p>このようなまちなかの近世以降の歴史文化風俗などの事実を掘り起こし、新たな光を当て、冊子として記録発行する。このことで地元を中心とした住民にまちの新たな魅力について知ってもらい、まちへの愛着と活性化につなげる。さらにこれらの情報をもとにまちの魅力創造や発信を行うことで新たな観光客の確保やリピーターの増加に寄与し、都市観光の推進を図る。</p>
課 題 の 緊急性・重要性	<p>長崎のまちは、ドーナツ化現象で、どこも空洞化が進んでいる反面、最近のマンションラッシュで、新たに他所から多くの人々が移転、まちの様相が大きく変貌しつつある。また、どこのまちも高齢化によって町内のもの知りと呼ばれる老人たちが少なくなり、仕来りや記憶の伝承なども危ぶまれている。これら貴重な情報の亡失や散逸を防ぐとともに、埋もれている歴史的事実を早急に掘り起こし、記録として残す必要がある。</p> <p>これらは今後の情報源として、中心市街地を核としたまちの活性化と観光に役立て、さらに長崎市全体へと波及していきたい。</p>
協働の必要性	<p>都心部全体を対象にして調査する必要があるが、新大工町から中通り、浜んまち、館内・新地、大浦などを調査対象に考えている。これらの地域は、龍馬の通った道ということで脚光を浴びているが、まだ十分に活用されているとはいえず、これらの地域の活性化は急務と思われる。</p> <p>現在、長崎市では「まちぶらプロジェクト」の事業が進められているほか、長崎国際観光コンベンション協会及び観光政策課では新たなさるく観光のコースづくりに取り組んでおられる。そこで、新大工ゾーン、中島川・寺町・丸山ゾーン、浜んまち・銅座ゾーン、館内・新地ゾーン、東山手・南山手ゾーンの5ゾーンに調査対象を絞り、流石！長崎といわれるような、画期的な新コースを作るため、観光政策課との協働が必要と考えている。</p> <p>出来れば2年間の事業とし、初年度は、新大工ゾーン、中島川・寺町・丸山、浜んまち・銅座の3ゾーンとし、2年目に館内・新地、東山手・南山手の2ゾーンとしたい。</p>
協働による 相乗効果	<p>これまでも本会単独で同様な調査等を行った経緯があるが、行政と協働することによって、聞き取り調査などの際、市民のより一層の協力が期待できる。長崎市所有の文献資料の収集効率があがる。</p> <p>長崎市にとってこの事業で得られた情報は、大変貴重で、収集したデータは逐次、行政へ提供することにより、将来にわたってさるく観光やまちづく</p>

	<p>りの素材として効果的に利用していただける。例えば、近世以降の歴史、文化、風俗などの新しい魅力ある事実を、冊子の発行によって地図や写真などの視覚に訴えて住民の意識を高めることで、まちへの愛着と誇りを持ってもらい、活力と魅力あるまちづくりが出来ると考えられる。ひいては観光客へのおもてなしの心へとつながっていくことが期待できる。また未指定文化財の調査などにも活用できると思われる。</p> <p>これは、本会にとっても同様で、本会の活動等に理解を深めてもらえるほか、貴重な情報を蓄積でき、将来にわたって活用できると思っている。さらに長崎市と協働で行っているということで会員の意識向上にもつながる。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <p>事業期間を2年間とすることで、調査対象を新大工ゾーンなど5ゾーンとし、文献や新聞記事等で歴史的事実の掘り起こし、さらには検証、確認を行う。また当該ゾーンの住民による聞き取り調査を実施し、地域の地図などをもとに文献との照合やエピソードなどの収集をはかる。</p> <p>これらの資料をまとめ行政への提供、冊子の編集、発行を行う。</p> <p>2 本市に期待する役割</p> <p>文献資料等の閲覧や提供、さらには自治会等を通じて当該ゾーンの住民の聞き取り調査の際、行政の面からの指導や連絡調整などに当たっていただく。</p> <p>収集データによる魅力あるまちづくりを中心とした積極的な活用をお願いしたい（素材を生かしたさるく観光コースの設定、マップや魅力アップしたパンフレットへの記載、さるくガイドの資料など）。</p>
提案事業の内容	<p>1 文献資料調査、冊子発行事業</p> <p>目標 文献資料や新聞記事等の文献資料を調査することによって新しい事実を掘り起こし、検証、確認する。</p> <p>成果 冊子を作成。知り得た情報を掲載、紹介する。</p> <p>A5版 約120頁 1000部（長崎市立博物館発行ハンドブック「長崎の史跡」を参考とする。内容は長崎に来た有名人の滞在記録やその地域でおきたエピソードをベースに展開し、できるだけ平易な文章にして市民に親しまれるものにする。</p> <p>内容 文献資料や新聞記事等を調査する。</p> <p>実施日程 週1回程度</p> <p>従事予定人数 1回当たり6人</p> <p>実施場所 長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館その他</p> <p>予算額 790,000円</p> <p>2 聞き取り調査事業</p> <p>目標 それぞれのゾーンの住民約20名に聞き取り調査を行うことにより、新しい事実の掘り起こしや確認を行うとともに、文献調査等で知り得た情報との校合を行うとともに、エピソードなどの収集をはかる。</p> <p>成果 冊子作成の資料とする。</p> <p>内容 それぞれのゾーンの住民等に聞き取り調査を行う。</p> <p>実施日程 月1～2回程度</p>

	<p>従事予定人数 1回当たり6人 実施場所 アマランスの会議室など 予算額 180,000円</p>															
<p>提案事業の 実施体制</p>	<p>1 総括責任者 原田博二 2 個別事業責任者 文献資料調査事業責任者 井手勝摩（専従者6人） 聞き取り調査事業責任者 福田哲也（専従者6人） 3 事業実施にあたっての専門性やノウハウ 本会は、会誌『長崎談叢』（これまでに98輯を刊行）の編集・刊行のほか、これまでに『長崎学ハンドブック』（長崎市立博物館他刊、これまでに5シリーズを刊行）などでも文献資料の調査や聞き取り調査、冊子等の編集等に協力を行っているので、本事業等の推進には全く支障はないと考える。</p>															
<p>事業 スケジュール</p>	<p>事業スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="432 790 1426 1081"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1四半期 4～6月</th> <th>第2四半期 7～9月</th> <th>第3四半期 10～12月</th> <th>第4四半期 1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文献資料調査事業</td> <td>準備・調査実施</td> <td>調査実施</td> <td>調査実施原稿作成</td> <td>冊子作成（編集・印刷・校正等）</td> </tr> <tr> <td>聞き取り調査事業</td> <td>準備・調整</td> <td>第1～5回開催</td> <td>第6～9回開催</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	文献資料調査事業	準備・調査実施	調査実施	調査実施原稿作成	冊子作成（編集・印刷・校正等）	聞き取り調査事業	準備・調整	第1～5回開催	第6～9回開催	
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月												
文献資料調査事業	準備・調査実施	調査実施	調査実施原稿作成	冊子作成（編集・印刷・校正等）												
聞き取り調査事業	準備・調整	第1～5回開催	第6～9回開催													
<p>事業の展望及び 今後の活動展開</p>	<p>事業によって得られた情報について、短期ではさらに調査を継続することによって情報をより精度の高いものとして行く。中・長期では、対象ゾーンを今回対象外とした大黒町から玉園町方面、元船町から五島町方面、万才町から桜町方面、勝山町から馬町方面などのゾーンにまで拡大、この「まちなか魅力新発見事業」の構想をより完全なものとし、長崎さるくを中心とした都市観光やまちづくり、さらには未指定文化財の調査などに貢献できればと思っている。</p>															